

平成 24 年度第 3 回小諸市総合計画審議会 議事概要

平成 24 年 10 月 30 日（火）開催

開催日時 平成 24 年 10 月 30 日（火）午後 1 時 30 分から

開催場所 小諸市コミュニティセンター3 階 大会議室

出席委員 大西崇弘、大川和代、相原久男、柏木博美、小林一彦、塩川明人、塩川恵子、  
竹内好子、中村康二、林稔、宮崎政廣、森山正行、依田克彦、依田孝彦  
以上 14 名

（欠席：塩川重治、桑原倫太郎 以上 2 名）

1. 開会

2. あいさつ

大西会長

3. 議事

(大西会長が議長となり、議事を進行)

(1) 第2回審議会議事録の確認について

(承認)

(2) 小諸市第9次基本計画(政策)案の目標設定について

事務局 (資料3に基づいて説明)

会長 それでは、ご意見、ご質問をお願いしたい。

中村委員 民間会社の計画であれば、売上高、利益、履行期日、投資金額といった数字が必ず入るが、この政策目標には数字がほとんどない。これでは抽象的過ぎて、市民が分からないのではないか。見識が違うのかもしれないが、数字の無い計画ではおかしいと思う。

事務局 中村委員の話はもっともで、数値化できるのが望ましいことではある。以前、行政評価に取り組んでいた中で、やっただけではだめで、成果を出さないといけないという考え方があり、その成果指標のとらえ方は、どれだけやったかというアウトプットでなく、どれだけ市民の役に立ったのかというアウトカムというものであった。今回の第9次基本計画における政策・施策においても、どれだけやったかでなく、どれだけ役に立ったのかというアウトカムで目標を設定することとしている。ただし、その下に設定される事業レベルについては、どれだけやったかというアウトプットの目標となる。これは、これまでの行政の考え方は、何をやったかということに片寄っていて、それによってどのような効果があったのかという部分が不足していたという反省から、どれだけ市民の役に立ったのかという観点からの評価を重視していくもの。アウトカムの目標については、単純に数値化するのが困難で、数値目標を設定できないものが多い現状であるが、市民アンケート調査を毎年やることで満足度を毎年測定するなど工夫をして、数値目標をなるべく増やしていきたい。

中村委員 事務局の説明は分かるが、例えば4年後の人口を何人にするとか、梅花教育では学力テストをどのランクにするとか、観光人口を何人にするとか、数字がないとやりがいもなく、民間とは違い楽でいいなというイメージがある。

事務局 政策、政策に基づきどのようにやるかということ各部署、課の担当が設定するのが実施計画の事業になり、そこでは数値目標を設定するようになる。

中村委員 その際、事業レベルの目標は対象が小さいものになるのではないかと。枝葉についての目標でなく、幹の部分についての目標を提示して欲しい。

事務局 事業についても、施策との因果関係で設定していくものであり、その中で幹の部分を説明していくこととしたい。

柏木委員 目標で設定している状態について、その状態になったかどうかというのは、どのように判断するのか。

宮崎委員 審議会であまり細かい話をしていくのは収拾がつかなくなるのではないかと。審議会ではもっと大筋の話をして、各担当課で噛み砕いて進めてもらうのが良い。

大西会長 ○○の状態ということ把握するのはたしかに難しいと思われる。たとえばアンケートとかで把握するのか。

事務局 いま議論しているのは全体の統制を考えた部分になる。この下の施策や事業に設定される数値目標などの成果を見て、政策単位の評価をしていくことになる。

小林委員 自然災害について触れているところが少ない気がするが。例えば浅間山に関する災害の対策など。

事務局 政策分野でいくと、危機管理・生活基盤整備ということになる。これに基づき、施策の中で「安全で安心な暮らしを実現する体制を構築します」というものがあり、そういった中で事業が設定されていくことになる。

### (3) 小諸市第9次基本計画施策体系図(案)について

事務局 (資料2に基づいて説明)

会長 それでは、ご意見、ご質問をお願いしたい。

相原委員 各担当課で他の課と連携して進めていくものがあると思われるが、どのように

進めていく予定か。

事務局 施策単位では複数の課にまたがるものが確かにある。その下の事業単位はそれぞれ担当課が設定されるので、そこでしっかりと連携を取って進める。また、組織機構の見直しで対応可能なものは、その中で対応していきたい。

小林委員 施策 7-2「財政の健全化を確保しながら効率的・効果的な財政運営を推進します」の方針で、最初に「自主納税」「納期内納付」と示されているのは、それだけ未納者が多いということか。

事務局 財政の健全化を図るためには、歳出削減等も当然あるが、それ以上に歳入の確保が重要であるということから、冒頭に記載している。市税収納率については近年良化してきており、平成 22 年度が県下 19 市中 10 位であったのが、23 年度は 7 位に上昇してきている。税務課の努力で収納率が上昇してきているが、小諸市はもともと市民一人当たりの担税力が低いということもある中で、今後ともこれまで以上に収納率の向上を図らなければいけないと考えている。

小林委員 通常、税収を上げるためには、企業誘致を推進し企業からの税収を増加させるとか、市民を増やすことで市民税を増加させるといった項目がまず出てくると思うが。

事務局 この行政経営の部分は、庁内組織を活性化させるための位置づけで、基本構想の柱とは別に一つの柱を立てているもので、そのような記載となっている。

宮崎委員 税の徴収に関連した職員の資質の問題で、税の収納について徴収員を委嘱していると思うが、以前、納期限前にもかかわらず、日曜日の夕方に徴収に行きたいとの電話がかかってきたので、翌日クレームをつけたことがあった。

事務局 改めて職員に徹底していきたい。現在、非常勤徴収員を 4 名委嘱しているが、職員が徴収をしないというわけではなく、滞納整理などの行政処分を始め、正職員も対応し、差押えやインターネット公売などのあらゆる法的手段により収納率の向上に努めている。

依田孝委員 政策の目標の数と、政策内の施策の数が異なるものがあるが、一致しないのはおかしいのではないか。

事務局 産業・交流などは、まとめた形で目標を設定しており、数が異なっている。一致させるかどうか、今後検討する。

中村委員 コンパクトシティや低炭素とあるが、小諸市全体をコンパクトにするということか。どのようなイメージなのか。

事務局 国交省で示しているのは、中心市街地を中心に半径 1 キロメートルを歩いて様々な用事を済ませることができることをコンパクトシティとしている。低炭素は中心市街地に集約することで CO2 の排出を少なくするというので、今後小諸市に合った対象メニューの立案を検討していきたい。

中村委員 旧小諸市内に病院や図書館、市役所などを全てまとめるということか。

事務局 市で全てできるわけではないが、市とすればそういった方向でまちづくりを進めるために、公共的施設をまとめていきたいと考えている。また、以前から指摘されている、全体のまちづくりの像についてもしっかりとまとめていきたい。

小林委員 コンパクトシティの考え方は、行政コストの削減ということも一つの目的としてあると思う。一方で、山間地のお年寄りなど、郊外の人が不便をこうむっている事例をテレビ番組で見た。そうならないように、こもろすみれ号の運行をきめ細かくするとか、きちんと対策を考えて欲しい。

事務局 そのように取り組みたい。

大西会長 バスについて言うと、今は福祉バスという位置づけで観光とは関係が薄いですが、なるべく連携を取って、様々な用途を含めて多くの方が利用できるようにして欲しい。例えば、今なつまちの観光客が布引まで行って、汗だくで町へ帰ってきているような人もいます。そういった人も使えるようになると良い。

大西会長 他に何かあるか。

柏木委員 施策における目標を実現するためにどのようなことをやるかというのは、実施計画で示されることになるのか。

事務局 そうなる。

林委員 他の自治体の事例でも良いので、可能であれば何かひな形のようなものを示してもらおうと良いのではないかと。全体像がぼけてしまっている。

事務局 検討したい。

大西会長 他になければ以上で終わりとしたい。

(意見なし)

#### 4. 閉会

午後 3 時 31 分終了